

## UiPath Studio 2021.10.4 の Windows10 Home エディションでの不具合対策

2022 年 1 月 28 日、2022 年 5 月 6 日追記

※UiPath Studio 2021.10.4 を Windows10 Home エディションで動かしたときに見られたこの不具合は、UiPath Studio 2022.4 へのバージョンアップによって解消されましたが、本書に関するサポートの履歴として、また、Windows モードによるプロジェクト作成のサンプルとして資料に残します。

「UiPath サンプル」にも Windows モードで作成した 4 つの「\*-Windows」プロジェクトを残してあります。

UiPath Studio 2021.10.4 を Windows10 Home エディションで操作したとき、デスクトップアプリケーションの「メモ帳」の操作を自動化するアクティビティの作成および実行で不具合が起きる場合があります。この問題を回避する対策をこの資料で説明します。

(※Windows10 Pro エディションでは問題はありません。)

関係するプロジェクト：

第 4 章の【GUI 個別指定】【GUI ベーシック記録】【GUI デスクトップ記録】

第 10 章の【動的セレクトター】

※これらはいずれも「メモ帳」を操作するアクティビティを含むプロジェクトです。

この資料で説明する対策を施したプロジェクトのサンプルは、「UiPath サンプル」においてそれぞれ、

【GUI 個別指定-Windows】

【GUI ベーシック記録-Windows】

【GUI デスクトップ記録-Windows】

【動的セレクトター-Windows】

として提供しています。

不具合として見られる現象：

(プロジェクト作成時)

- [クリック]アクティビティにおいて、「メモ帳」画面のメニュー内の[ファイル]ボタン、プルダウン内の[名前を付けて保存]項目、[名前を付けて保存]項目を選択できない。
- [文字を入力] アクティビティにおいて、「メモ帳」のテキスト編集エリアを選

択できない。

(プロジェクト動作時)

- 「GUI 個別指定」「GUI ベーシック記録」「GUI デスクトップ記録」「動的セクター」を UiPath Studio で動かすと、「メモ帳」のテキスト編集エリアを操作するところでセクターが無効であるとのエラーが出る。

問題を回避する対策：

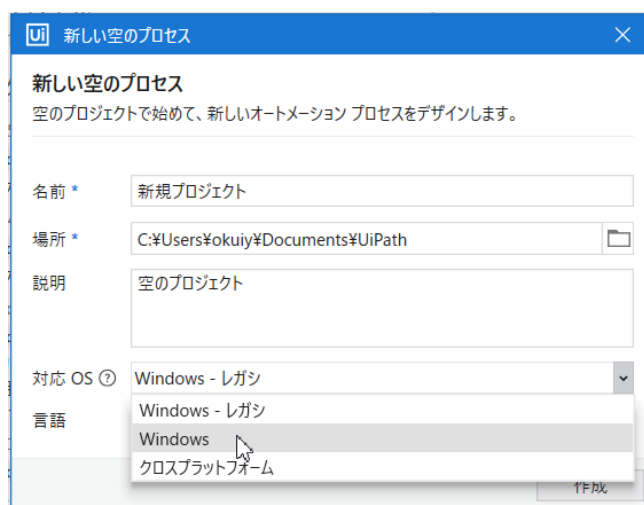
UiPath Studio 2021.10.4 を Windows10 Home エディションで操作したときに起きる問題は、以下のようにして回避することができます。

- プロジェクトを「Windows」モードで作成する。
- 「メモ帳」のテキスト編集エリア、[ファイル]、[名前を付けて保存]、[メモ帳の終了]を選択するときに「UI フレームワーク」のオプションを「UIA」にする。

#### ■プロジェクトを「Windows」モードで作成する

UiPath Studio はバージョン 2022.10 からする対応 OS として「Windows - レガシ」と「Windows」の2つを区別するようになりました。バージョン 2022.4 までに作成されたプロジェクトは「Windows - レガシ」に分類されます。

UiPath Studio バージョン 2022.10 以降、新規のプロジェクトを作成するときに下記のように、対応 OS として「Windows - レガシ」と「Windows」を選択することができます（デフォルトは「Windows - レガシ」です）。

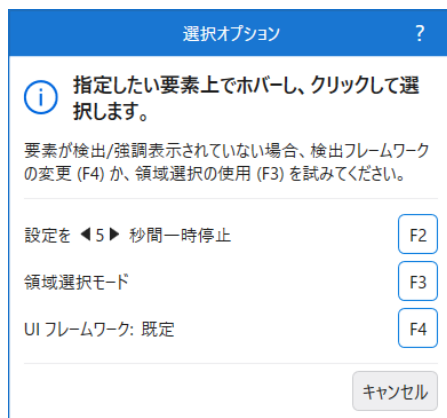


今回の問題を回避するには、まずプロジェクトを「Windows」で作成してください。

## ■画面の「選択オプション」画面で「UI フレームワーク」項目を「UIA」に変える

(以下に、書籍の p66 から始まる【GUI 個別指定】プロジェクトを例にとって対応策を示します。これと同じ要領で他のプロジェクトも指定方法を変えてください)

[クリック]や[文字を入力]のアクティビティで「メモ帳」画面内の各部を選択しようとすると以下のような「画面選択オプション」が出ます。



「UI フレームワーク」項目が「既定」となっていますが、以下の場合にファンクションキー「F4」を押して「UIA」に変えます。

### [文字を入力]アクティビティ

- “UiPath へようこそ”という文字を入れるために[文字を入力]アクティビティでメモ帳のテキスト編集エリアを選択するとき (書籍 p68)

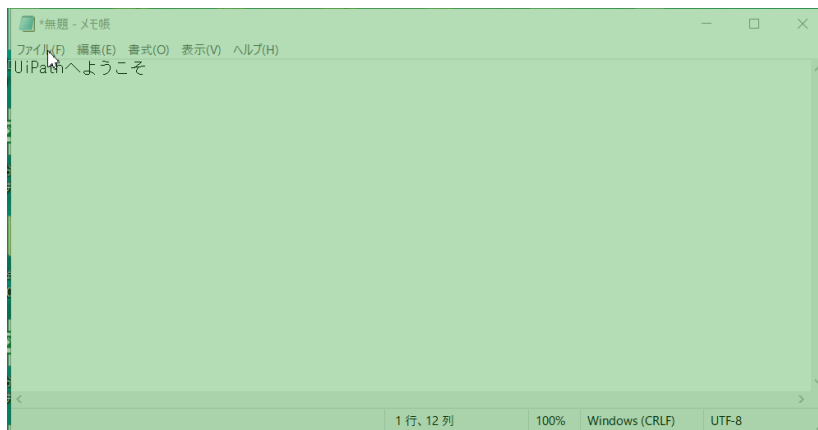
### [クリック]アクティビティ

- ファイルを保存するためにメニューの[ファイル]ボタンを選択するとき (書籍 p69、p76)
- [ファイル]のプルダウンの[名前を付けて保存]項目を選択するとき (書籍 p71)
- [ファイル]のプルダウンの[メモ帳の終了]項目を選択するとき (書籍 p77)

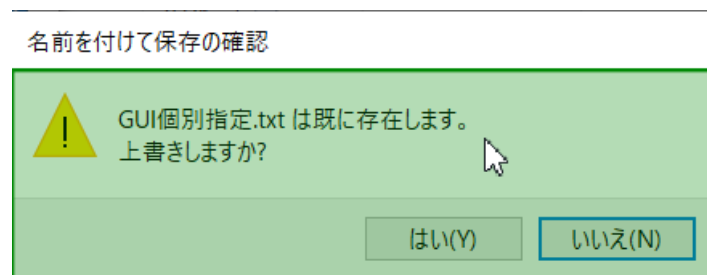
### [要素の存在を確認]アクティビティ

- ファイルを保存するときに既に同名ファイルが存在するときに出る[名前を付けて保存の確認]画面内の文章部分を選択するとき (書籍 p79)

なお、これらの中で、[クリック]アクティビティと[要素の存在を確認]アクティビティについては、UI フレームワークを「UIA」にしないと、そもそも下記のように、該当部分を選択することもできません。

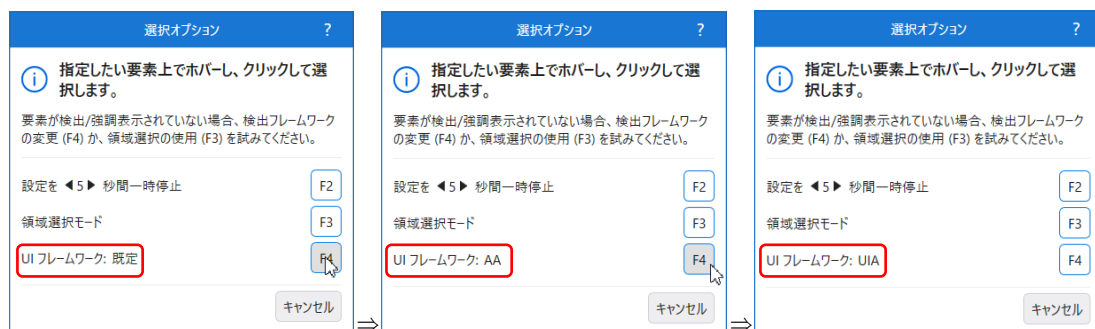


UI フレームワークが「既定」では p76 のようには[ファイル]を選択できない現象

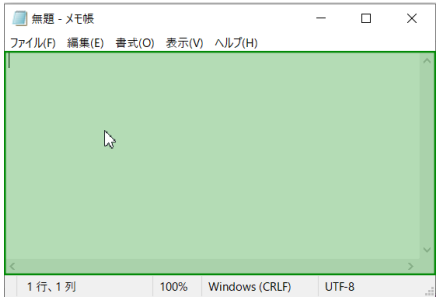



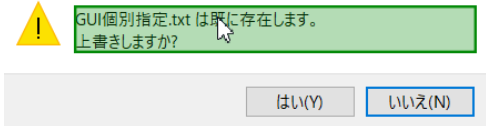


p79 のようには内部の文章部分を選択することができない現象

UI フレームワークを「UIA」にするには、次のように画面内の[F4]をクリックするか、ファンクションキーF4 を実際に押します。



このように UI フレームワークを「UIA」に設定した上で、下記のように対象箇所を選択します。

 <p>注) p68 の[文字を入力]アクティビティでは、UI フレームワークが「既定」であってもテキスト編集エリアは選択できませんが、それによって生成されるセレクターがプロジェクト実行時にエラーを起こしますので、UI フレームワークを「UIA」にした上でテキスト編集エリアを選択してください。</p>	
	
<p>名前を付けて保存の確認</p> 	

## ■レコーディング機能での考慮点

p84 の「GUI ベーシック記録」と p95 の「GUI デスクトップ記録」においてレコーディング機能を使うときの考慮点を以下に記します。

### 【選択オプション画面の違い】

レコーディング機能を使うと、「メモ帳」画面内の領域を選択するときに出る「選択オプション」は下記のような画面で指定します（これは「Windows - レガシ」のときの画面と同じです）。

UI フレームワークの切り替えは実際のファンクションキーF4 を押します。

	⇒		⇒	
--	---	--	---	---

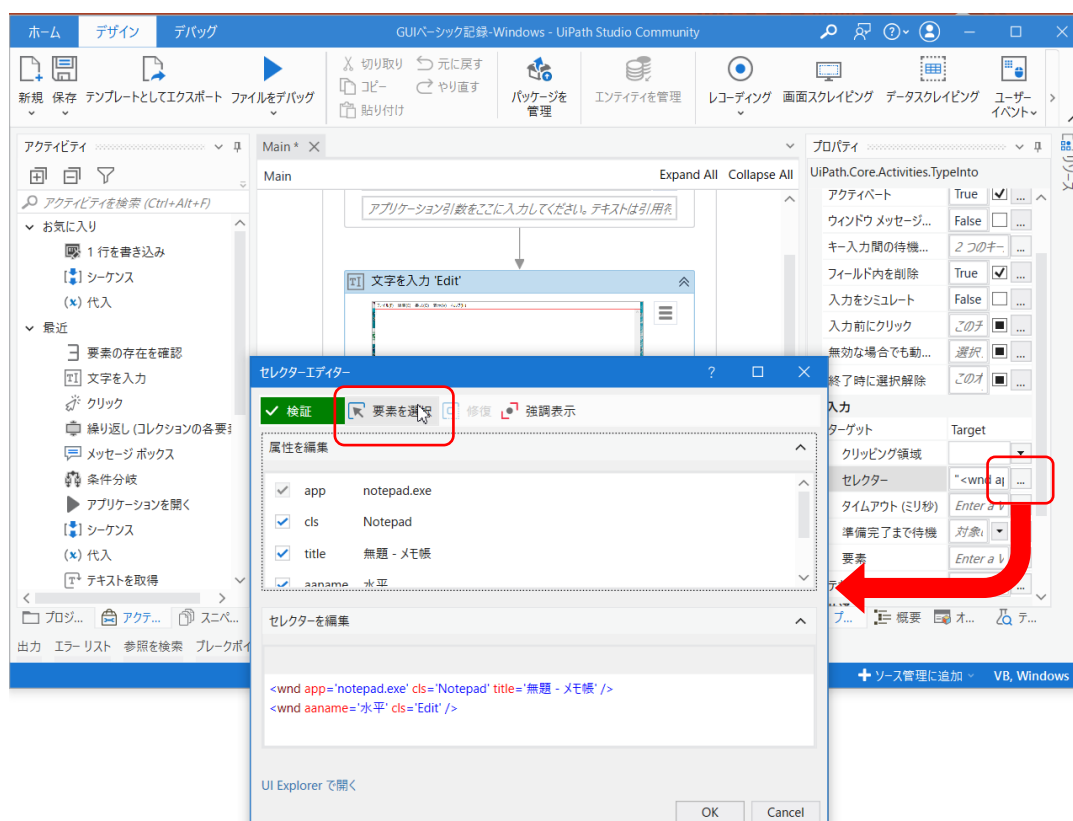
【文字を入力する領域をクリックしたとき「UIA」では入力テキストを指定する吹き出し型のプロンプトが出ないため、後で「セクターエディター」を使う】

レコーディング機能の「記録」を使って操作をしているときには、UI フレームワークを「UIA」にすると、下記のような吹き出し型のテキスト入力プロンプト画面が出ません。

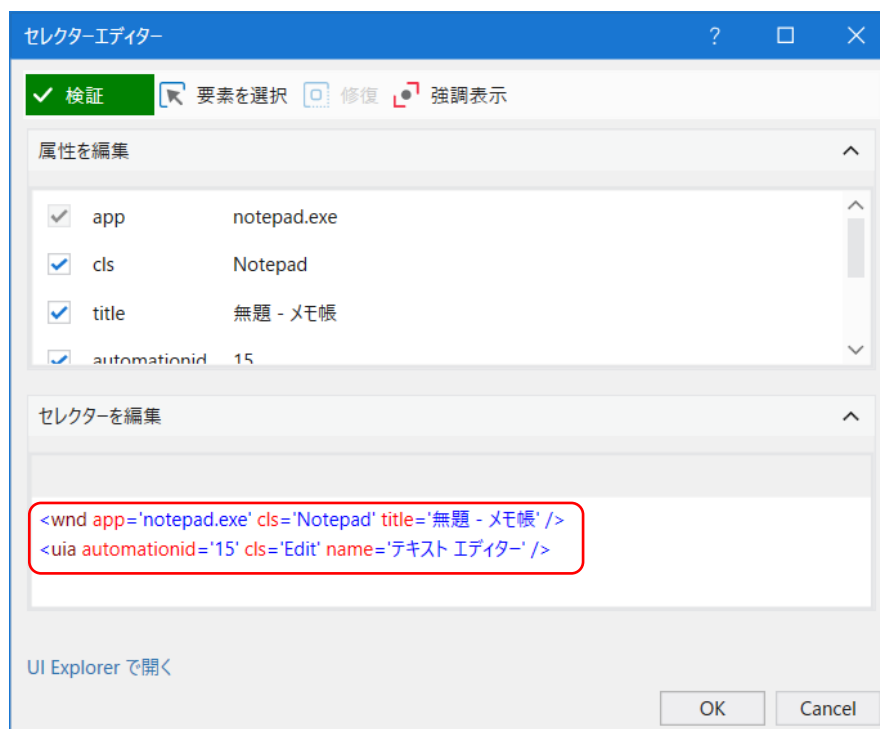


したがって、この場合は UI フレームワークを「既定」にして吹き出し型のテキスト入力プロンプト画面の操作を行って一通りプロジェクトを作ってください。

プロジェクトが出来た後で、対象となる[文字を入力]アクティビティでセレクトーエディターを使ってセレクトーを編集します。このときに UI フレームワークを「UIA」に変えて対象となる要素を選択してください。(※このときに、「メモ帳」は新規に起動し「無題」でテキスト未入力の状態にしてセレクトーを生成するようにしてください)



ここで「メモ帳」のテキスト編集エリアを選択すると次のようにセレクターが<uia>タグを使ったものになります。



これで、このアクティビティがエラーを起こさずに実行されるようになります。

以上